

表彰業務の概要及び表彰理由

部門	測量業務部門
ふりがな 会社名	かぶしきかいしゃ やすだそくりょう 株式会社 安田測量
担当技術者	安田 晃昭（主任技術者）
業務名	測量業務委託 121号その52（道路調査）
工期	（着手）令和6年10月23日 ～（完了）令和7年3月12日
担当課所	日光土木事務所
業務概要	<p>本業務委託は、文挾バイパスⅡ期工区の道路計画を策定するに当たり、測量図を作成することを目的として実施した測量業務である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ UAV 写真測量 $A = 0.18 \text{ km}^2$ ・ 数地図化 $A = 0.18 \text{ km}^2$
表彰理由	<p>高圧送電線・鉄塔や携帯電話基地局、日光杉並木や人家が連立する中、あらかじめ地上レーザにより送電線や鉄塔、樹木を計測し、安全で効率的な UAV 飛行計画を立案した。</p> <p>また、広範囲な UAV 写真測量を行うに当たり、高解像度カメラや長時間航続可能な産業用 UAV を導入し、時間変化による計測精度悪化の回避に努めるとともに、計測不足が懸念される樹林部や高圧送電線鉄塔近傍、側溝などの小構造物端部を中心に、UAV レーザ、地上レーザ、トータルステーション等を組み合わせた補備測量を行うなど、精度向上への積極的な取り組みは、高く評価できるものであった。</p>

部門	地質調査業務部門
ふりがな 会社名	ふようちしつ かぶしきかいしゃ 芙蓉地質 株式会社
担当技術者	宮崎 基浩（主任技術者）
業務名	地質調査業務委託 桜通り平出線その26（道路調査）
工期	（着手）令和6年11月22日 ～（完了）令和7年2月19日
担当課所	宇都宮土木事務所
業務概要	<p>本業務委託は、都市計画道路3・2・102号桜通り平出線の拡幅工事に伴う、一級河川田川を渡河する橋梁を設計するに当たり、必要な地質調査を実施した業務である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械ボーリング $N = 2$ 本
表彰理由	<p>事前に既往調査データを収集・検討した結果から、周辺礫層における標準貫入試験のバラツキ発生を予測して、試験員との詳細な情報共有や入念なコア観察による適否、総貫入量10cm毎の打撃回数の評価などを行い、詳細設計時における追加調査とのデータ整合に配慮し、試験値の精度向上を図った。</p> <p>また、ボーリング責任者などに有資格者を配置するとともに、近年のICT施工に対応すべく、一般財団法人国土地盤情報センターにおける地盤データ検定に合格するなど、精度向上に努めたことは、高く評価できるものであった。</p>

部門	土木設計業務部門
ふりがな 会社名	かぶしきかいしゃ シー・あい・えす 株式会社 シー・アイ・エス
担当技術者	小島 正樹（主任技術者）
業務名	設計業務委託 赤沢Aその53（補助砂防）
工期	（着手）令和6年3月5日 ～（完了）令和6年10月25日
担当課所	日光土木事務所
業務概要	<p>本業務委託は、急傾斜地崩壊対策事業に伴う、赤沢Aの急傾斜地崩壊対策詳細設計を実施した業務である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜地崩壊対策詳細設計 N=1式
表彰理由	<p>保安林や鉄道が近接する中、仮設を含めた施工時の安全性の調整において、建設リスクを最小化する検討を行い、3DVR（バーチャルリアリティ）を活用した鉄道事業者との合意形成（列車運転手目線での視認性及び施工の影響を検証）や、資材等の搬入経路となり得る既設橋梁の合理的な安全性照査により、大規模な補強対策等を回避するなど、施工の効率性とコスト縮減を考慮したきめ細かな設計を行った。</p> <p>また、狭隘スペースにおける工法や施工手順等について詳細な検討を行い、関係機関との合同現地踏査により計画の妥当性を確認しながら、確実な施工方法を立案するなど、その成果は高く評価できるものであった。</p>

部門	調査・点検等業務部門
ふりがな 会社名	かぶしきかいしゃ だいみっく 株式会社 ダイミック
担当技術者	田中 清貴（主任技術者）
業務名	自然環境調査業務委託 尾名川その41（河川調査）
工期	（着手）令和5年8月15日 ～（完了）令和6年8月13日
担当課所	安足土木事務所
業務概要	<p>本業務委託は、一級河川尾名川の改修計画を策定するに当たり、基礎資料を作成するとともに、渡良瀬川上流圏域河川整備計画に反映させることを目的として実施した調査業務である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川環境調査業務 N=1式
表彰理由	<p>調査に当たり、調査対象範囲（本川）のみでなく支川上流まで調査を拡大したことで、本川で確認された重要種が支川上流部にあるテーマパークの個体種であることを確認できた。</p> <p>また、魚類調査では、効率的でコスト縮減や技術者不足解消も期待できる環境DNA調査を採用した。さらには、推奨調査時期のみでなく、各種調査時期に合わせた横断的な補完調査を実施し、的確な生息状況把握に努め、生態系に配慮した河川整備計画策定に有効な記録を得たことは、高く評価できるものであった。</p>